

被災木をアートの力で再生：未来への祈りを形にする

知足，美加子
九州大学大学院芸術工学研究院：教授

<https://hdl.handle.net/2324/7172154>

出版情報：pp. 47-48, 2021-02. 九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ
バージョン：
権利関係：



被災木をアート力で再生 未来への祈りを形にする

流木再生プロジェクト（彫刻）代表 知足 美加子（本冊子監修担当）



流木からアートを

私は「九州大学災害復興支援団」の一員として発災直後の被災地に入り、その景観の変容に衝撃を受けました。一晩中続く濁流の鳴動の中、被災者の方々が味わった恐怖は察するに余り有ります。「昨日とつながらない今日」を生きる被災者の方々の生活基盤の復旧とともに、「心の復興感（レジリエンス）」が必要であると考えました。特に、子どもたちの「自然」に対する負の感情を少しでも軽減するために、

被災木からアートを創造する「流木再生プロジェクト」に取り組みました。子供たちが地域を好きでいてくれることが、未来をつなぐと考えたからです。

まず、杉の香りと手触りを楽しみながら読書してほしいと、閉校になる朝倉市の小学校（松末、久喜宮、志波）の児童一人ひとりに、校名と校章を刻んだ「流木のしおり」を贈りました。知足研究室の学生達も、それぞれがデザインした流木しおりを販売し、義援金とする活動を行いました。また、

松末小学校において、災害倒木と校庭の小石を使って「時計作りワークショップ」を行いました。子供たちの手の中で、木が愛されるものとして生まれ変わり、新しい時を刻んでほしいと願いました。

次に、彫刻家である私は、樹齢 132 年の樟（くす）の流木から「水の守り神」としての龍の彫刻《朝倉龍》（2018）を制作しました。これは現在、統廃合後に新設された杷木小学校に設置されています。子供たちが、「この龍がいるから、もう災害が起こらないような気がする」と言ってくれたことは、本当に嬉しいことでした。

翌年、倒木した樹齢 300 年の天然記念物「吉木のヤマザクラ」（添田町）と朝倉流木をつかって、《花開童子と福太郎童子》（2019）を制作しました。災害後から不通になっている JR 日田彦山線の開通祈願として、修験道の山である英彦山の守護童子を題材にしました。記憶の継承とともに、くりかえす自然の営みへの「祈り」を込めています。さらに、「意識継続」および「地域連携」を促すために、復興ガーデン（p.5）やこの小冊子を企画しています。

英彦山分水嶺と芸術文化

今回の豪雨災害は、英彦山南西部一帯（朝倉市、東峰村、添田町、日田市）の水系で起こりました。自然を崇敬して

きた英彦山山伏の子孫である私は、言いようのない痛みを感じていました。ふりかえると私の活動はすべて、この痛みから発しているのだと思います。倒れた木のいのちを何かに活かしたいと願う心は、英彦山に限らず、森林と共に暮らしてきた我々の根底にあるものです。これからも、木や水などの自然を地域の文化資源ととらえ、芸術文化と復興をつないでいこうと考えています。



私たちができること

朝倉市黒川における「共星の里」の復興ガーデンプロジェクト（土壌改良と蜜源になる植栽等）によって、人々が癒される場づくりをすすめている。

私たちがのぞむこと

本冊子を契機に、復興支援団体同士の連携や、地域内外の支え合いがひろがってほしい。



知足 美加子 ともたり みかこ
九州大学大学院 芸術工学研究院教授
博士（芸術学）。彫刻家（国画会会員）。山岳修験道学会評議員（英彦山山伏「知足院」の子孫）。筑波大学院芸術研究科（彫塑）修了。平成 2 年度青年海外協力隊（コスタリカ）。中越地震、東日本大震災、熊本震災、九州北部豪雨災害において、アートを通した復興支援活動を行う。復興支援「福岡エルフの木」「英彦山文化財復元プロジェクト」他。

国立大学法人九州大学
（芸術工学研究院）
【住所】福岡県福岡市南区塩原4-9-1
【電話番号】092-553-4400
【E-mail】tomotari@design.kyushu-u.ac.jp
【Web】http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~tomotari/